リンク先レコード流用入力

リンクするべきレコードが総合目録データベースに登録されていない場合は、これまでに行ってき たレコードの作成と同一の方法でリンクすべきレコードの登録を行ってからリンクを形成する。

ここではリンク先の親書誌レコードの作成(流用入力)を例に挙げて説明するが、リンク先の著者 名典拠レコード、統一書名典拠レコードを作成する場合であっても、操作方法は同じである。

例題 河野純徳著「鹿児島における聖書翻訳」(キリシタン文化研究会, 1981)を登録する。

[情報源]

標題紙

奥付

キリシタン文化研究シリーズ 21

河野純徳著

鹿児島における聖書翻訳

ーラゲ神父と第七高等学校造士館教授たち―



キリシタン文化研究会

著 者 河野純

> 1921年 東京に生れる

1946年 中央大学経済学部を卒業後、イエズス会に入会 鹿児島純心女子短期大学学長

現 在 現住所

施工の市地・タエルボハマース 施児島市特池町1847 日本婚姻法における協議離婚――キリスト教婚姻親と対比して―― 1865年イタリア民法婚姻編の成立過程

「サカラメンタ提要」における婚姻の秘跡――17世紀初頭。日本に 播種された西欧婚姻法の体系-

愛の想い みははマリア 主とともに 十字架の道 朝の遊蔵

鹿児島における聖書翻訳

昭和56年4月19日 発行

頒価 2000 円

著 者 河 野 純 徳 印刷者 長 沼 滋 雄 印刷所 日之出印刷株式会社

キリシタン文化研究会

東京都千代田区紀尾井町7 上智大学内

振替 東京 2-135739 番

取次所 中央出版社

東京都新宿区四谷 1-2 電話 03-357-6401 振替 東京 2-62233 番

頁数 243p 大きさ 21cm 図版 [2] p 本文の言語 日本語

例題のポイント

• 流用入力時に、シリーズ名が表示されていたので書誌構造リンク形成を行おうとしたところ、 親書誌レコードが参照ファイルのみにヒットしたので、親書誌を流用作成してからリンク形 成を行う。

例題登録のための操作の流れ

(1) 書誌検索・書誌流用入力

総合目録データベースには求める書誌レコードがヒットしない(ただし,何度も検索キーを変えて検索する必要がある)。参照ファイルに求める書誌レコードがヒットするため,流用入力を行う。

(2) 書誌構造リンク先書誌作成

情報源にシリーズ名が表示されているので書誌構造リンク形成を行うが、総合目録データベースには求める親書誌レコードがヒットしない。参照ファイルに求める書誌レコードがヒットするため、参照ファイルのレコードから流用入力し、書誌レコードを編集する。

(3) 書誌登録・リンク形成

書誌構造リンクフィールドは必ずリンク形成を行う。リンク形成の方法(リンク先レコードの検索の方法)はクライアント毎に異なるため、使用するクライアントでの設定を確認する。 さらに、著者名リンクを形成する(著者名リンクフィールドが存在する場合は、可能な限り リンク形成を行う)。

(4) 所蔵登録

所蔵レコードを記入し, 登録する。

(5) 登録終了

※ 階層のある図書の流用入力の際,参照ファイルと書誌構造が異なっている場合があるため,注意 が必要となる。詳細は付録8「流用入力時の注意点」を参照のこと。

操作例

求める書誌レコードを参照ファイルから流用入力してデータの修正・追加等を行う。

書誌構造リンク作業を行った ところ、参照ファイルのみに ヒットした。





補講1 リンク先レコード作成

リンク先レコード流用入力

このレコードが求める書誌レコードであることを確認したら,当該レコードを総合目録データベースに流用入力する。

この例では参照ファイルにヒット したが、ノーヒットの場合には新 規入力を行う。→第7講

親書誌レコードの TXTL フィールドには、言語コード「und」を使用する(ただし、「バランスしない書誌構造」であるため VOL フィールドに記述されているものがある場合は、その言語コード)。

データの編集・追加等があれば 行い, リンクを確定する。

この時点で、流用入力したリンク 先親書誌レコードは、総合目録デ ータベースに登録される。

子書誌レコードの流用作成表示に戻る。PTBLフィールドの〈〉の中に親書誌レコードのIDが埋め込まれていて、書誌構造リンクが形成されていることが確認できる。

書誌構造リンクが形成された時点で、PTBLフィールドの◇の直前までのデータは、親書誌レコードのTRフィールドの形に書き換えられる。

さらに著者名リンクを形成するな ど、データ修正・追加の作業を続 ける。

図書書誌流用作成 (講習会用サーバ)	リンク状態: 親書誌(1)	^
リンク確定 リンク中断 書注詳細に戻る クリア	▽ タグ追加	
JPMARC		
CODE GMD: SMD: YEAR: CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:und ORGL:		
ISSN: NBN: LCCN: NDLCN:		
REPRO: GPON: OTHN:		
TR: キリシタン文化研究シリーズ キリシタン ブンカ ケンキュウ シリーズ		
PUB: 東京 : キリシタン文化研究会		
		~

TR: 鹿児島における聖書翻訳 : ラゲ神父と第七高等学校造士館教授たち / 河野純徳著 カゴシマ ニオケルセイショ ホンヤク : ラゲ シンプ ト ダイシチ コウトウ ガッコウ ゾウシカン キョウジュ タチ								
PUB: 東京: キリシタン文化研究会, 1981.4								
PHYS: 243p, 図版 [2] p; 21cm NOTE: ラゲ神父の肖像あり PTBL:キリシタン文化研究シリーズ キリシタン ブンカ ケンキュウ シリーズ <> 21 // a								
				<u>AL</u> :河野,純徳 コウノ,ヨシノリ < >				
				リンク	(71)7) (後元)			
PTBTR:	キリシタン文化研究シリーズ							
PTBTRR:	キリシタン ブンカ ケンキュウ シリーズ							
PTBTRVR:								
PTBID:	BA10027404							
PTBNO:	21							
PTBK:	a							

<u>PTBL:</u>キリシタン文化研究シリーズ || キリシタン ブンカ ケンキュウ シリーズ <BA10027404>21 // a

<u>AL:</u>河野,純徳 || コウノ,ヨシノリ < >

1. 所蔵レコードの削除

1. 所蔵レコードの削除

所蔵レコード=各参加組織固有のデータ → 各参加組織で削除することができる。 所蔵レコードの削除の方法は、クライアント毎に異なる。

操作例

削除したい所蔵レコードがリ ンクしている書誌レコードを 検索し、詳細表示する。

自館の所蔵レコードを表示する。



自館の所蔵レコードを詳細表示する。



1. 所蔵レコードの削除

VOL: CLN: 338.21||Nis RGTN: S88653 CPYR:

表示された所蔵レコードを削除する。

削除したレコードは元に戻せないので、充分に確認してから行うこと。

所蔵一覧で,削除を確認する。

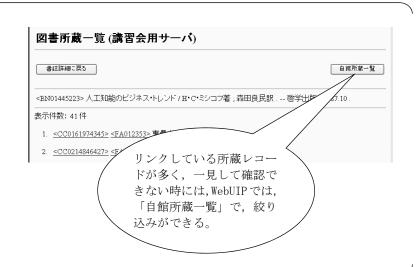


図書所蔵一覧 (教育用サーバ)

戻る

F100:所蔵登録情報はありません

他に所蔵レコードがある場合。



2. 書誌レコードの削除

2. 図書書誌レコードの削除

書誌レコード=共有データ → 各参加組織で削除することはできない。 「削除予定レコード」化することだけができる。

「削除予定レコード」

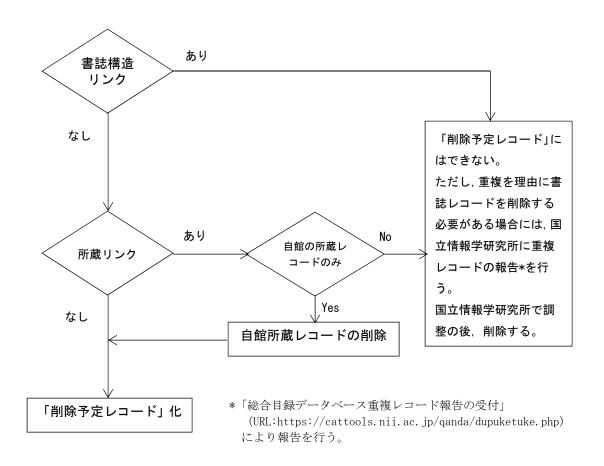
フィールド	データ	備考
TTLL	und	言語コード
TXTL	und	言語コード
TRD	削除予定レコード	洋図書の場合でも漢字で記入する
PUBP	削除	洋図書の場合でも漢字で記入する
その他のフィールド	_	データは一切記録しない

典拠レコードの「削除予定レコード」化 → 「**目録システム利用マニュアル」第6版4.6.6**, **4.7.5**

「削除予定レコード」化の際には、次の2点について必ず確認する。

リンクしている子書誌レコードがないこと

リンクしている所蔵レコードがないこと



2. 書誌レコードの削除

図書書誌詳細 (講習会用サーバ)

修正 流用 子書誌一覧 簡略一覧に戻る

操作例

削除したい書誌レコードを検索し,詳 細表示する。

リンクしている所蔵レコードがない ことを確認する。

自館の所蔵レコードのみがリンクしている場合には、所蔵レコード削除の手順に従って削除した後、再度確認を行う。

[図書書誌検索] [著者名典拠検索] [統一書名典拠検索] [参加組織検索] [ログアウト]

所蔵登録 所蔵一覧

書誌の修正作業に移行する。

「削除予定レコード」に書き替える。 TTLL, TXTL, TRD, PUBP フィールド以 外のフィールドのデータはすべて削 除する。

記入が終了したら書誌を保存する。

TTLL, TXTL, TR, PUB は必須フィールドなので, どれか 1 つのフィールドでも入力漏れがあると, 登録できない。







補講 3 書誌修正指針

1. 書誌レコード修正の指針

- 1. 書誌レコード修正の指針
- 1.1 書誌レコード修正の原則
- 「目録情報の基準」や目録規則などに照らして誤りではない場合、原則として最初に作成された書誌レコードを維持する。
- ・ データが正確かつ豊富になるように修正を行う。

1.2 書誌レコード修正の範囲

- 修正を行う必要がある。
 - データに明らかな誤りがある。
 - 例) 転記の際の単純な記入ミス
 - ・データが「目録情報の基準」や目録規則と合致しない(図書書誌レコードの作成単位を含む)。
- 可能ならば修正することが望ましい。
 - ・入力レベルが「選択」である項目に対するデータの記入・追加
 - 例) VT フィールドの追加
 - ・入力レベル「必須」の項目で、複数のデータが存在するときの2番目以降のデータの記入・追加
- データが未記入であるときの記入・追加に際しては、改めて書誌レコードの同定を行う必要がある。
 - 例) PTBL フィールドの追加
- それ以外の修正(自館の都合によるデータの削除など)は行ってはならない。
 - 例)SHフィールドの削除

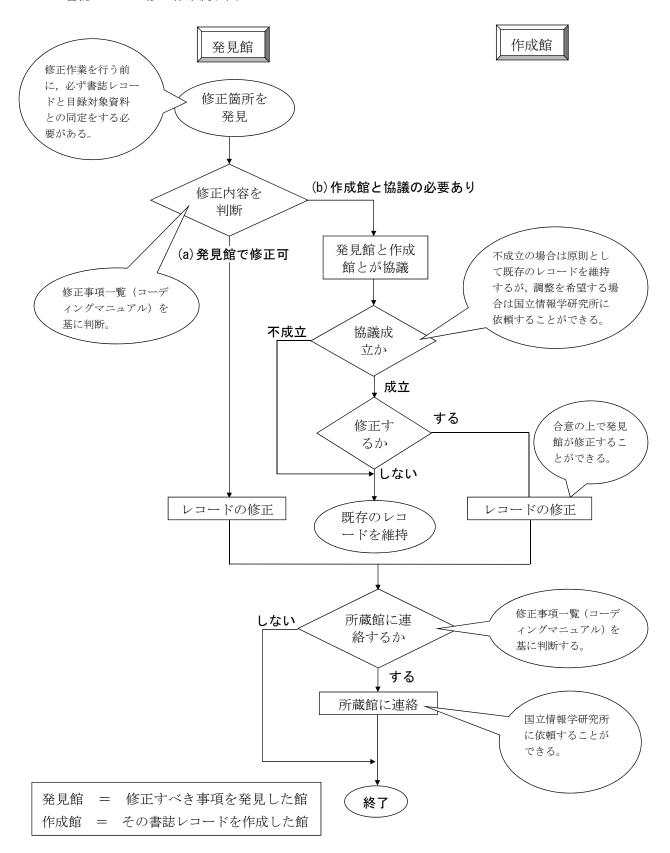
なお、修正を行う際でも、以下のような場合には、修正事項を発見した館が独自に修正を行っては ならず、**当該書誌レコードの作成館との協議が必要**である。

- ・書誌構造に変更を及ぼすような修正
 - 例) PTBL フィールドの追加
- ・別途書誌レコードを作成するか否かの根拠となるような情報の修正
 - 例) ED フィールドの追加

2. 書誌レコード修正作業の流れ

2. 書誌レコード修正作業の流れ

2.1 書誌レコード修正作業流れ図



2. 書誌レコード修正作業の流れ

2.2 修正事項一覧(抜粋)

フィー ルド名	修 正 事 項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
VOL	(1) 新たな巻冊次・部編名の追加	0		
	(2) 装丁に関わる特殊な版表示に関わる語句の追加	0		
	(3) ISBN の説明語句の追加	0		
	(4) 区切り記号の訂正	0		
	(5) VOL フィールドのデータが長すぎるときのデータの VOL フィールドから NOTE フィールドへの移動 (ただし、出版物理単位を識別するために必要な情報は残すこと)	0		
	(6) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	0		
	(7) 書誌単位の取りかたの相違等による個別書誌の統合化 (この場合、重複書誌レコードの報告が必要)		0	0
	(8) 書誌レコードを分割するような場合での VOL の削除例:装丁に関わる特殊な版表示があるときの分割	0		0
	(9) 書誌単位の変更の結果、階層として表現するために VOL フィールド を削除するような場合		0	0
	(10) 価格に対する説明語句等の記述を削除する場合	0		

→コーディングマニュアル 21.1

2.3 修正時の基本的対応

- 1 修正指針をもとに作業を行う。
 - (a) 発見館が修正を行うことが可能なもの

修正の内容を慎重に検討した上で、当該書誌レコードを修正する。

1

その他の所蔵館に修正内容を連絡するかどうかを判断する(修正事項一覧を参照)。

(b) 発見館が作成館と連絡・協議をする必要があるもの

必ず作成館と連絡をとり、確認または協議する。

 \prod

作成館が修正に同意した場合,原則として作成館が当該書誌レコードを修正する。 (双方が同意すれば発見館が修正を行うことも可能)

IJ

その他の所蔵館に修正内容を連絡するかどうかを判断する(修正事項一覧を参照)。

2 (所蔵館への連絡が必要な場合) 国立情報学研究所へ報告する。

ホームページにある「図書書誌レコード修正報告の受付」から報告する。

URL: https://cattools.nii.ac.jp/qanda/chguketuke.php

※平成18年度より、当該書誌レコードにリンクする所蔵館数に関係なく、国立情報学研究 所への所蔵館連絡の依頼が可能となった。 2. 書誌レコード修正作業の流れ

2.4 修正時の例外的対応

事 例	対 応
作成館で原資料の確認ができない	発見館は、作成館との合意の上で、修正を行う ことができる。
RECON ファイルから取り込まれた書誌レコード (CRTDT に作成日付以外の数字あり) の場合	所蔵レコードから,みなし作成館(最も先に所蔵 をリンクした館)を判断する。
発見館と作成館との間での協議が不調に終わった 基準や目録規則の解釈が目録担当者の間で分かれ るような場合	原則として修正は行わず、既存の書誌レコードを 維持する。 (特に調整が必要な場合には、国立情報学研究所 に連絡する)
修正事項一覧に規定されていないような事項 修正の結果,重複書誌が発生してしまった	国立情報学研究所に連絡する。

また、必要に応じて作成館以外の所蔵館と、修正について連絡・協議をしてもよい。

※ 作成館は、書誌レコードの CRTFA に記録されている。

作成館が判明しない場合は、最も先に所蔵をリンクした館(所蔵 ID の最も小さい館、もしくは所蔵 ID で比較できない場合には所蔵レコードの CRTDT の最も小さい館)を作成館とみなす。

なお、典拠レコードの修正については、コーディングマニュアル第25章を参照する。

※「レコード調整連絡ツール」について

平成15年1月から「レコード調整連絡ツール」を公開しています。

URL : http://mokuren.nii.ac.jp/recordctl/

本ツールにより、従来 FAX で行っていた所蔵館間での連絡・報告を、より円滑にメールで行うことが可能です。

補講 4 参加組織情報

1. 参加組織情報の表示

1. 参加組織情報の表示

各参加組織の連絡先等に関する情報は、参加組織レコード参照(リンク参照)を行うことで表示できる。次のように行う。

- (1) 所蔵レコードから、参加組織レコード ID (FANO) の参加組織情報を参照する。
- (2) 書誌レコードから、CRTFA、RNWFAの参加組織情報を参照する。

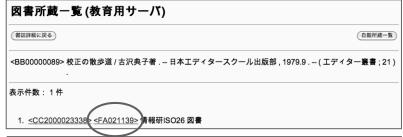
操作例

所蔵一覧の簡略表示画面で参加組織レコード ID をクリックして、その所蔵館の参加組織情報を表示させる。

参加組織情報が詳細表示される。

ఫం

また、書誌詳細表示で CRTFA および RNWFA に表示されている参加組織 ID をクリックすると、その参加組織情報が表示される。







参加組織情報のデータ項目の内容

〈参加組織 ID〉

ORGNW: 参加組織名 ORGSN: 参加組織略称

YNO: 郵便番号 ADDRS: 住所

CATDEPT:目録担当部局名

CATTEL: 目録担当部局の電話番号(内線)

CATFAX: 目録担当部局の FAX 番号

SYSDEPT: システム担当部局名

SYSTEL: システム担当部局の電話番号(内線)

SYSFAX: システム担当部局の FAX 番号

EMAIL: E-MAIL アドレス

補講 4 参加組織情報

2. 参加組織情報のメンテナンス

2. 参加組織情報のメンテナンス

操作例

参加組織検索画面に移動して, 自館の参加組織番号で参加機 関の検索を行う。 [図書書誌検索] [著者名典拠検索] [統一書名典拠検索] (参加組織検索) [ログアウト] 図書書誌検索 (講習会用サーバ)

自館の参加組織レコードが表示される。



修正作業に移行する。



レコード調整連絡先に関する 連絡先の修正を行う。

レコード調整連絡先 (CATDEPT, CATTEL, CATFAX, EMAIL) は, 入力 が必須となっている。

各フィールドとも繰り返し可能なので、図書・雑誌など業務ごとに 連絡先が異なる場合は、それぞれ について記録する。 CATDEPT: 目録情報管理係
CATTEL: 03-4212-2310
CATTEL: 03-4212-2375
CATTEL: 03-4212-2375
EMAIL: BOOK: catadm@nii.ac.jp

補講 4 参加組織情報

2. 参加組織情報のメンテナンス

修正内容を確認し,保存する。



<EMAIL フィールドの入力方法>

EMAIL: (担当の種類コード): Email アドレス

担当の種類コード:

(図書) BOOK

(雑誌) SERIAL

(ILL) ILL

入力例:

図書目録担当の連絡先を記入 BOOK: xxxx@lib. xx. ac. jp

図書・雑誌で兼用の連絡先を記入 BOOK, SERIAL: xxxx@lib. xx. ac. jp

※複数のコードは「,」で区切って記録する。

CiNii Books のリリースにともなう参加組織ファイルのメンテナンス

目録所在情報サービスのホームページ 参照

→http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/tool/books_news.html

◆ 「利用方法」への表示

参加組織情報の POLICY フィールドに導入句 「WEBPOLICY:」を付けて入力する。 (NACSIS Webcat の表示を引き継ぐ。)

◆ OPAC への直接リンクの形成

参加組織情報の POLICY フィールドに、下記形式の記述を追加する。

OPACURL: http://xxx.xxx.xxx/xxx?ncid=<NCID>

〈NCID〉の部分が実際の書誌 ID に置換される。

◆ 参加組織名称の英語表記(英語版ページに表示)

参加組織情報の POLICY フィールドに、英語表記を追加する。